

永尾かね駒製作所

企業概要

- 所在地：兵庫県三木市平田311 ○TEL：0794-82-1566 ○設立：明治27年 ○代表者：代表 永尾 光雄
- 従業員数：7人(平成30年6月現在) ○E-mail：pkjix172@ybb.ne.jp ○HP：http://www.higonokami.jp/
- 事業内容：肥後守(ひごのかみ)などの簡易折りたたみナイフ製造業
- 主要生産設備：プレス機、自動研磨機、縦型・横型研磨機、焼入れ炉、鍛造炉、ベルトサンダー、フレクションなど

事業計画名

高度研磨設備導入による新商品開発、新市場展開



粗研磨工程の設備導入により、重要工程に熟練職人の時間を当てられるようにすることで、伝統的な製法を守りながら生産性を向上させる取り組み。またそれによって新製品開発を促進する事業。

取り組みの背景

明治27年に平田ナイフ製造業を設立し、現在も100年以上に渡り伝統技術を継承し製造を行っている。折りたたみ万能ナイフ「肥後守」は三木市の伝統的な刃物技術を用いたナイフであるが、最盛期には40軒あった工房も現在では当社1軒のみとなっている。近年、肥後守は、切れ味はもちろん品質やデザイン性などから国内だけでなく、ヨーロッパでも人気が出てきている。しかし肥後守は、伝統的な手法であることから、極めて生産効率が悪い商品となってしまった。その結果、現在納品は8ヵ月待ちであり、大手通販サイトなどから新規取引のお問い合わせを頂いたものの、断らざるを得ない状況となっている。そこで生産性を向上させるために本事業に取り組んだ。

取り組みの目標

- 生産性の改善(日産 200丁⇒700丁)
- 新商品開発(新デザイン開発)
- 海外市場の販売量拡大

取り組みの内容

三木の刃物製造の伝統を受け継いでいる「肥後守」は、以下の製法で作られている。

①材料の切断②鍛造③粗研磨④焼き入れ⑤研ぎ

なお「⑤研ぎ」では、刃先を研いで刃こぼれしにくくする「小刃付け」まで行っている。これにより、耐久性があるにもかかわらず、切れ味も良いという両方の機能をもったナイフとなる。一方、この工程の多さに加え、熟練職人が全てを行っていることが生産性を低くしている。そこで本事業では伝統的な製法を守りながら、熟練の職人が技術を活かす工程と効率化する工程を分離し、簡易な工程に関しては設備導入により生産性を高める取り組みを行った。

肥後守の製法において、機能を決定する重要な工程は②鍛造④焼き入れ⑤研ぎである。この3工程はいずれも熟練技術を要することから、機械化により生産性を上げることが難しい。一方、「③粗研磨」においては改善の余地がある。上記3工程よりも技術要素及び品質決定要素が低く、新たな設備を導入することで、生産性が飛躍的に向上する。そして熟練職人の時間を重要3工程に回すことで、生産性を高めることが可能になった。

同社の強み

- ・三木の刃物製造技術を活かして作られた「肥後守」を100年以上作り続けている技術力
- ・小ロット対応が可能な生産体制(デザインなどの柔軟な対応)

ポイント

熟練職人が伝統的な手法に特化できる生産体制の構築

「③粗研磨」の工程は、鍛造後に断面を大まかにV字型に研ぎ、鋼の刃を出す作業である。これまでの設備では、圧力が低く複数回の研磨が必要となり、時間を要していた。また、モーター回転軸のブレもあり、不良率が高かった。これにより熟練職人の手が取られている状況であった。

そこで新たな研磨設備を導入し、粗研磨工程の改善を図ることで、品質を左右する重要3工程(②鍛造④焼き入れ⑤研ぎ)に熟練職人の時間を多く割けるように改善した。

その結果、日産200丁から700丁へ増産が可能となった。

さらに、設備の導入により熟練職人以外でも操作が可能となり、若年層の採用・育成にも繋がった。



【熟練職人による鍛造風景】



【生産性が向上しストックされた製品】

伝統的な技術を活かした新製品開発

肥後守は100年以上の歴史を誇る製品である。過去には全国的に普及していた時代があったが、鉛筆削りやカッターナイフの登場により売上が減少していった。近年は伝統的なものづくりや、品質の高さなどが改めて評価され、国内のみならず海外からも注目を浴びている。



【デザイン性を追求したHIGONOKAMI】

評価が見直されている今だからこそ、伝統を活かした新たな製品開発を行い、肥後守の魅力を更に高めていけると考えている。実際にアパレルメーカーとのコラボレーションや、デザイナーとの製品開発を行っている。



【鞘(持ち手)を加工した製品】

社長の声



永尾かね駒製作所
代表 永尾 光雄氏

伝統を残しつつ、新たなチャレンジを

当社は肥後守の製造技術を100年以上継承し続け、私が5代目になります。

肥後守は、過去に各家庭の必需品として全国的に普及していました。しかし時代と共に流通量が減少し、一時は消滅の危機もありました。それでも周りの方のご協力もあり、なんとか継続して作り続けてきました。

近年では、生活必需品としての肥後守ではなく、伝統的なものづくりとして肥後守が見直されています。そのニーズに合わせて、品質はもちろんのこと、カラーやデザイン、使用用途に至るまで、新たな物づくりの必要性を感じています。

歴史と伝統は残しながら、時代に合わせて変化させていく。歴史を守るために、攻めていくという姿勢で、改めて皆様に愛して頂ける肥後守を作っていく所存です。